編集委員退任にあたって

会誌「情報処理」編集委員会では，担当理事として2年間，その後編集委員として2年間活動させていただきました．特に強く印象に残っているのは，情報処理学会50周年を記念した会誌特集号や全国大会の企画段階から参画し，新たな半世紀に向けた情報処理学会の取り組みや情報処理技術の未来についてのメッセージ発信に貢献できたことでした．情報処理技術遺産に見られる草創期の独創的な研究開発の事例から，情報処理技術の未来地図に至るまで，日本における情報処理分野での連綿とした努力と成功，今後の展望についての認識を新たにすることができましたし，会員の皆様にも同じような感動が届けられたものと信じています．会誌へのコメントで企画した記事が好評であったときには本当に報われた気分になりますし，逆に不評のコメントをいただいたときにはかなり深刻に落ち込んだものでした．いずれにしても貴重な時間を割いてコメントしていただいたことが編集委員の励みになりました．

会誌編集に携わっていると，近年の情報処理分野の拡大（話題のロングテール化）には感嘆せざるをえません．以前であればコンピュータ・アーキテクチャやプログラミング言語と基礎理論などのコアな分野に関心が集まっていた状況から，音楽・芸術，人文学，ライフサイエンスといった諸分野との学際化や，交通・エネルギー制御などの社会システムへの展開，インターネットとモバイル機器を中心とした無数のアプリケーションおよびサービスなど，きわめて広い範囲に興味が拡散しています．このような広大な対象分野をカバーして多くの会員の皆様に満足いただける会誌を発行すること自体が大きなチャレンジとなっており，執筆者の確保や記事構成・バランスなどにこれまで以上に配慮が必要になっていることを痛感しました．個人的にはあまり多くの企画を提出できず働きの悪い委員として申し訳ない気持ちで一杯ですが，これからも自分の所属する主要なコミュニティとして情報処理学会および会誌の発展にできる限り貢献したいですし，会誌「情報処理」にはこれからもロングテール化をものともしない企画力と情報発信力で会員を魅了してほしいと心から願っています．

（2008～2009年度会誌出版担当理事／
2010～2011年度編集委員）

武田 浩一（日本アイ・ビー・エム（株））